

Message

[推薦コメント]



大阪大学人間科学研究科教授・志水宏吉 氏から
「Ecommons」にお寄せいただいたコメントをご紹介します。

志水宏吉

Shimizu Kokichi

- 代表的な著作
- 「つながり格差」が学力格差を生む（亜紀書房）
 - 公立学校の底力（中公新書）
 - 学力格差是正策の国際比較（岩波書店）
 - 学力を育てる（岩波新書） など
 - 「力のある学校」の探究（大阪大学出版会）



「Ecommons」は
教材準備の手間・労力の大幅な合理化を
教育現場にもたらすものである――

現代の日本社会における教育格差は著しい。以前よりも間違いなく深刻化している。私が調査研究を進めてきた小・中学生の学力問題で言うなら、今世紀に入って以降、どの学校でも子どもたちの学力の「2こぶラクダ化」が懸念される状況となってきている。

学力格差の縮小・克服の任にあたるべきは学校教師なのだが、その先生方がまた忙しい。中学校教師に対するある全国調査によると、半数以上の教師が、「ひと月当たりの教科勤務80時間以上」という過労死ラインを超える時間労働をしていると回答している。先生方には子どもたちを何とかしたいという思いがあるに違いないのだが、時間的余裕が決定的に足りない。この問題に敢然と切り込んだのが、藪中くんの提案である。

藪中くんは、私がコーディネーターとして運営してきた、大阪大学の博士課程教育リーディングプログラム「未来共生」の1期生である。大学院での学修に励むかたわら、家庭的に恵まれない子どもたちに対する学習支援活動を地域で展開してきたのが彼である。彼の志の高さと目のつけどころのユニークさは、1期生のなかでもキラリと光るものがあった。

今回の彼の提案は、教材準備の手間・労力の大幅な合理化を教育現場にもたらすものである。彼の斬新なビジネスモデルが、さまざまな現場で奮闘する先生方の新たなネットワークづくりに貢献し、授業・学習の革新につながることを願ってやまない。

大阪大学人間科学研究科教授 志水宏吉